

ご存じですか！文化財

52

「水塚と揚舟」



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)

北川辺地域の農業集落を歩いてみると、母屋に隣接する敷地の一角に母屋より一段高くなつた建屋がある。光景をよく目にします。これは水塚と呼ばれる水害時における避難用の建物です。

天明年間(18世紀末)以降、数年に一度は起きる洪水に備えて、先人たちは盛土をした上に小さな建物を建て、中に米・味噌などの食糧、衣類、汁物などを蓄えました。



水塚

てられたものの中には、古い農具や日用品を収納して、今も立派に物置として活用されているものもあります。水場の暮らしが生み出した歴史的建造物であるだけに、後世にもできるだけ残したい建物です。

もう一つ、母屋や納屋の軒下に揚舟が吊り下げられている光景も目にします。長さ3軒半(6.3m)、幅4尺(約1.2m)の大きな舟で、水害時には唯一の交通手段でした。洪水常襲地帯の名残は、北川辺地域のいたるところに今も見ることが出来ます。



揚舟

昭和30年代には約170あった北川辺の水塚も、老朽化とともに解体され、現在はその半数足らずに減っています。しかし、昭和22年のカスリーン台風以降に建

紹介者 山崎繁雄さん(駒場)